



「さあ～、俺たちの出番だ」意気上がる参加者

津軽凧・大空で舞いを競う

—津軽大凧を揚げる大会開かれる—

市内一野坪の五農高前の水田で二月五日、「第七回津軽大凧を揚げる大会」が開

かれ、西の内百二十二枚の超大型から西の内二十枚以上の津軽凧六十五台が集ま

り、大空での舞いを競い合いました。同大会は、津軽カイトク

ラブ(佐藤甚弥会長)が主催しているもので、県内はもとより遠くは東京、仙台の日本凧の会のメンバーも駆けつけました。

この大会は、Dクラス(西の内二十枚以上)から六十枚以上のAクラスまでの四段階に分けて行い、「安定性」「うなり」「マナー」「伝統性」の四つを審査基準に、津軽大凧の日本一を競い合いました。

この日は、青空が広がる好天に恵まれ、時折風速十メートル以上の風が吹く中で、参加者はDクラスから順に揚げていきました。

十人がかりで持ち上げた西の内六十枚以上の大凧が風に乗って揚がると、会場を訪れていた多くの観衆からは驚きと賞賛の声が何度も上がっていました。

毎号とじこんでください。きつとお役に立ちます。

市民憲章 (昭和59年10月1日制定)

わたしたちの先人は、不撓不屈の五所川原魂をもってあらゆる困難を克服し新田を切り開き、今日の活力に満ちた五所川原市を築き上げました。

わたしたちは、この伝統を継承し、広い視野に立って西北津軽の人々と協調し、郷土の限らない発展を願って、ここに市民憲章を定めます。

- ◎心身ともに健康で、明るい家庭をつくります。
- ◎自然を大切に、力を合わせて花と緑の美しいまちをつくります。
- ◎平和を愛し、きまりを守り、住みよいまちをつくります。
- ◎文化を尊び、生涯学習をもとに心豊かな人をつくります。
- ◎未来に夢を持ち、創意と実践により栄えゆく郷土をつくります。

平成元年

№681

2-15

地吹雪解明に 最新レーダー導入

地吹雪研究の成果を発表

―地吹雪講演会を開く―

科学技術庁国立防災科学技術センターでは、六十一年度から地吹雪の発生機構の解明と雪害防止技術の開発をめざし、市内毘沙門地区で冬期間、地吹雪の観測調査を続けてきました。

今冬からは、稲垣村福富地区に最新式のドップラーレーダーを設置し、一月二十三日から二十九日まで観測が行われました。

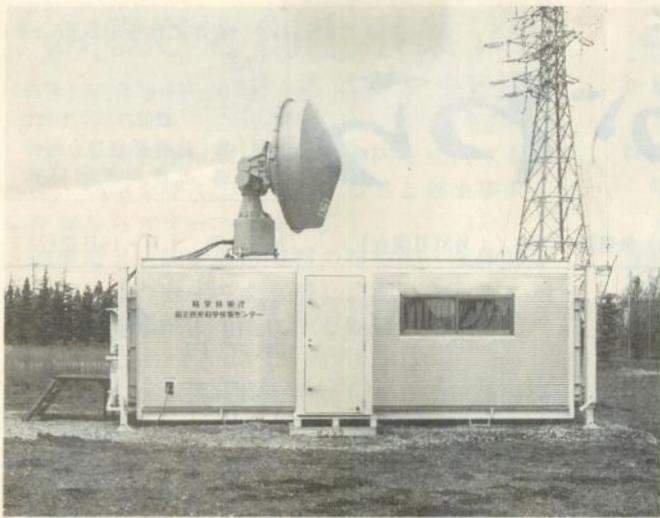
同レーダーは、電波のドップラー効果を利用したもので、発射電波により雪雲をはじめ降雪粒子などの動きを空中線の振幅数、位相差遠近感を立体的に測定

の変化をカラー映像で正確に分析でき、アンテナ直径二、四十キロ四方の広い地域にわたる高度二万メートルの観測が可能な気象レーダーで、国立防災科学技術センターが開発した最新型のもので

これと並行して、毘沙門地区では有人地上観測が一月二十四日から三十一日まで行われ、地吹雪時の地上付近の気象条件、地吹雪による雪の輸送量などが測定されました。

三年前から始められた地上観測と併せ、今冬からのレーダー観測、低層ゾンデ(気象観測用気球)の打ち上げとこれまでにない立体的、広域的な地吹雪観測システムが出来上がり、地吹雪のメカニズム解明に貴重なデータが得られるものと期待されています。

なお、同システムによる調査は平成三年まで行われる予定です。



初めて導入された最新式ドップラーレーダー

五所川原市を中心に、地吹雪の研究を続けている科学技術庁国立防災科学技術センターの研究員が一月二十七日、市中央公民館で開催された「地吹雪講演会」において、その研究の現状について発表しました。



地吹雪研究について報告する研究員

講演会では、最初に同センター新庄雪氷防災研究所の佐藤威研究員が「日本における吹雪の研究」と題し、日本の研究の歴史や最近の研究動向を講演。

続いて同支所の佐藤篤司主任研究員は、「津軽平野における吹雪と気象の観測」と題し、毘沙門地区における過去二か年の観測の結果を報告しました。

また、東浦将夫同支所雪氷防災第二研究室長が「国立防災科学技術センターの地吹雪研究」について講演し、最後に木村忠志新庄支所長が「吹雪用測器について」解説し講演会を終了しました。

市林業振興地域

育成協議会委員を委嘱

市では一月二十八日、市長公室で林業振興地域育成協議会委員十七人の委嘱状交付式及び組織会を行いました。

林業振興地域育成協議会

は、地域林業の総合的な整備育成を図るため、林業振興整備計画の策定、整備計画に基づく事業の実施等に関する重要事項を協議していただくために設置したものです。

交付式では森田市長が「当市は昨年八月に林業振興



委嘱状交付式

地域指定を受け、緑に囲まれた故郷づくり計画を策定中です。この計画に皆さんの貴重な経験やご意見をお願いします」とあいさつを述べました。

引き続き、組織会を開催し、役員を決めました。

今回、市が委嘱した方々は次のとおりで、任期は二年です。(敬称略)

◎会長 平山誠敏(学識経験者)

◎副会長 外崎富保(原子力・羽野木沢・依元財産区

議長、三浦一正(飯詰部分林組合長)

◎委員

○福永純久(金木営林署長)

○其田実美(北地方農林事務所長)

○中野堅司(北津軽森林組合長)

○中谷惣四郎(市農協組合長)

○泉谷正志(市農業委員会

長)

○土岐美智明(野里財産区

議長)

○松野繁春(神山財産区議

長)

○中川定雄(松野木財産区

議長)

○片岡重義(戸沢財産区議

長)

○新谷武一(前田野目財産

区議長)

○小笠原豊秋(持子沢財産

区議長)

○齋藤鉄四郎(前田野目部

分林組合長)

○春藤正輝(学識経験者)

○前田堅(学識経験者)

「百姓の集い」開かれる

「これからの農業について意見交換」

「百姓の集い」と銘打った農業者達の集りが二月三・四の両日、コミュニティセンター栄で開かれました。

これは、日ごろ考えていることや自ら開発した技術、今後の農業経営のあり方等について自由に語り合い、農業に生きる者同志のつな

がりを深めようと、五所川原地区農業経営士・青年農業士会(境谷博顕会長)と五所川原地区農業改良普及所が主催したもので、今年で四回目となり、津軽地域から約四十人の「お百姓さん」が参加しました。

初日は、まず主催者を代表して境谷会長が「青森県の農業発展のために、我々農家のあり方を原点にかえて日ごろ考えていることを思いっきり語り合いたい」とあいさつを述べました。

引き続き、森田市長が「皆さんの活力が、この集いを契機として津軽の新しい農業のさきがけとなるよう期待します」と激励の言葉を述べました。

その後、三上光男七和農協組合長の「これからの農家と農協の進む道」と題した講演が行われ、続いて「市内三農協組合長と参加者との意見交換」参加者全員による一言発言」と参加者が持ち寄った酒と肴の味覚による「意見交換会」など、深夜まで思う存分語り合いました。

二日目は、前日のまとめと次回の開催要項などを決め、全日程を終了しました。



「百姓の集い」であいさつを述べる森田市長

市の人口増加へ

県統計課では二月二日、昭和六十三年の人口移動状況(速報)を発表しました。これは、去る一月一日現在の推計人口を昨年同日と比較したもので、県内六十七市町村の中で七市町村だけ人口が増加したもので、当市は、八戸市に次ぐ四百六十五人の増加で、人口は四万九千三十五人となり、さらに伸び率は八戸市(〇・二二パーセント)を大きく上回る〇・九六パーセントを示しております。

人口増加の最大の要因は、当市が重点施策として積極的に取り組んできた企業誘致や地場産業の育成などによって雇用の場が拡大された成果があらわれはじめたものと考えられております。

市では今後とも一層企業誘致や地場産業の育成などにより雇用の場の確保、拡大を図ることとしていきます。

第七回市内小学校なわとび大会

十三校約800人参加

去る二月五日、市民体育館を会場に「第七回市内小学校なわとび大会」が、市内の小学校十三校から児童

約八百人が参加して開かれました。同大会は、冬期間の子ども達が家の中にとじこもり運動不足になりがちで、これを解消するため、気軽にできる「なわとび運動」を行い、体力の向上と健康の増進を図るとともに、なわとびに対する興味と意欲を高め生涯体育として身につけさせることを目的に市教育委員会が主催しているもので、今回で七回目になります。



意欲的に「なわとび」をする子ども達

参加した児童は、日ごろの練習の成果を十分に発揮し、「二重とび」「時間とび」「チャレンジ・タイム」などに意欲的に挑戦していました。

交通安全教室 (8)

雪道は危険がいっぱい

—五所川原警察署—

- ▶車の尻振り、横滑りを招く、急ブレーキ、急ハンドル、急加速はやめましょう。
- ▶カーブの手前では余裕をもって減速しましょう。
- ▶吹雪や大雪のときは、昼間でもライトを点灯し、確実に徐行しましょう。
- ▶歩行者の側方を通過するときは、スピードを落とし、安全な間隔を保ちましょう。



※ 雪道は日陰、日向など場所的な条件や時間帯によって、刻々と路面の状態がかわります。雪がないと思っても路面が凍っている場合が多いので、スピードは常に控えめにしましょう。

交通災害共済受付中 -年額350円- 家族そろって加入しましょう

現在加入されている方は、3月31日で共済期間が満期になりますので、早めに市民課(交通防犯対策室)または各支所へ申し込みください。

特に、お年寄りや幼児の交通事故が増加していますので、まだ加入されていない方もご家族そろって加入されるようおすすめします。

▷加入できる人—五所川原市に住民登録をされている方

▷共済会費・期間—年額350円(共済期間の途中で加入する場合も同額です。)

共済期間は、毎年4月1日から始まり翌年の3月31日で終わります。(途中で加入される人は、加入の日から3月31日までとなります)

▷その他—小・中学校の児童生徒については、各学校を通じて受け付けています。保育所、職場、町内会、各種グループなど20人以上が加入される場合は、団体の取り扱いをします。

○共済見舞金の額

災害の程度		等級	金額
死亡した場合		1	800,000円
実治療日数 180日以上で	入院180日以上を含む	2	150,000円
	入院90日以上180日未満を含む	3	130,000円
実治療日数 90日以上 180日未満で	入院90日未満又は入院なきものを含む	4	110,000円
	入院90日未満又は入院なきものを含む	5	80,000円
実治療日数60日以上90日未満		7	45,000円
実治療日数30日以上60日未満		8	35,000円
実治療日数10日以上30日未満		9	25,000円
実治療日数10日未満		10	15,000円

愛の手を世界に広げる赤十字にご協力を

日本赤十字社は、事業の趣旨に協賛する社員の拠出金と寄付金によってまかなわれています。本年も2月1日から、県内一斉に社員の増強運動がはじまりました。

皆さんのご家庭に奉仕者がお伺いしますので、1世帯1人は社員になり赤十字事業にご協力をお願いします。

〈社員の種別と社費納入要領〉

- ①普通社員—毎年500円以上
- ②銀色特別社員—毎年1,000円以上
- ③金色特別社員—毎年3,000円以上
(②から③への昇格は毎年2,000円以上)
- ④有功章 { 銀色有功章—時に200,000円以上
 { 金色有功章—時に500,000円以上
(3年以内の分納でもよい)
- ⑤500円未満の場合は、1年限りの寄付金となります。

ます。

〈主な事業〉

- ①災害救護(救護班の派遣、救護金の募集と配分、救護資材の整備等)
 - ②血液事業(血液センターの経営、献血者の処遇と表彰、献血思想の普及等)
 - ③三つの講習—救急法・家庭看護法・水上安全法の普及(事故者・急病人の応急手当等)
 - ④赤十字奉仕団の育成(奉仕団組織活動の強化、分団組織拡大等)
 - ⑤青少年赤十字の育成(研究指定校の委嘱及び地域活動推進等)
 - ⑥国際援護活動(災害、紛争等の難民の救護、発展途上国への援助等)
- ▷問い合わせ先 市福祉事務所庶務係(☎③21 11番内線286番)へどうぞ。

五所川原おやこ劇場 —例会ご案内—

- 「発進せよ! UFOミュージックBOX」
- ▷日時 3月19日(日)午後1時30分から
- ▷場所 市民文化会館
- 「突然の陽ざし」(劇団風の子)
- (小学校高学年および中・高校生対象作品)
- ▷日時 6月3日(土)午後6時30分から
- ▷場所 市民文化会館

◎会員募集

- ▷会費 入会金100円、会費月800円(前納制)
- ▷参加資格 誰でも、いつでも入会できます。
- ▷申し込み及び問い合わせ先 事務局(市内本町東奥日報社ビル4階☎③21 70番)へどうぞ。

消費税が 4月からスタートします

4月1日から新しく消費税がスタートします。この消費税は、商品やサービスの売上げにかかる間接税で、税金分は価格に上乘せされ、最終的に消費者が負担します。

なお、消費者が負担した税金の納付は製造、卸、小売の各事業者が行うことになっています。

そのため事業者の方には、消費税の仕組みはもちろんのこと、納税事務の手続きをいち早く知っていただく必要があります。

税務署では、消費税についてのいろいろな疑問に答えるため、事業者の方に対して説明会を開催したり、詳しいパンフレットを用意していますので、ぜひご利用ください。

◎消費税に係る説明会

▷日時 3月22日(水)午後1時から

▷場所 市中央公民館

▷対象者 一般事業者等

※詳しいことは、五所川原税務署(☎④3138番)へどうぞ。

平成元年度奨学生を募集 —(財)五所川原市教育振興会—

教育振興会では、次の要領により平成元年度の奨学生を募集します。

希望する人は、在学している学校を経て市教育委員会総務課へお申し込みください。

▷申し込み期限 2月28日まで

▷応募資格 次のすべてに該当する人としてします。

- ①平成元年4月に高等学校または大学に入学志望の人
- ②人物、学業ともに優秀で、かつ健康であるが著しく学資の支弁が困難と認められる人
- ③市内に在住している人
- ④過去3か年の全教科の平均成績が3.5点(5段階評価)以上の人

▷貸与金額

- ①高等学校—公、私立とも入学料および授業料相当額(在学期間)
- ②大学—公、私立とも入学支度金として40万円限度

▷返還方法

- ①高等学校—卒業の翌年から、奨学金を受けた期間の倍の期間以内。
- ②大学—卒業の翌月から6か月経過後、就学期間の倍の期間以内。

※なお、詳しくは市教育委員会総務課(☎④2111番内線293番)へどうぞ。

平成元年度 市・県民税の申告相談

税の正確を期するため、必ず申告してください。ようお願いします。

会場は次のとおりです。

地区	月日	曜	対象区域	時間	相談会場
栄	2・25	土	みどり町	9:20~ 15:00	コミュニ ティセ ンター さかえ
	2・27	月	稲実・姥薮		
	2・28	火	七ツ館・広田		
毘沙門	3・1	水	毘沙門	9:20~ 15:00	毘沙門・ 長富コミ ュニテー センター
	3・2	木	長富		
長橋	3・3	金	野里・豊成・福山	9:20~ 15:00	コミュニ ティセ ンター 長橋
	3・6	月	戸沢・松野木		
	3・7	火	浅井・神山		
本 庁	3・8	水	寺町・川端町・小曲 長橋橋元・新宮町・ 新宮岡田・新宮松元	9:00~ 15:00	市民文化 会館
	3・9	木	新町・柳町・栄町・ 田町・八重菊・不魚 住・錦町		
	3・10	金	幾世森・柏原町・鎌 谷町・一ツ谷・烏森 下り枝・弥生町・布 屋町・幾島町		
	3・13	月	末広町・上平井町・ 中平井町・元町・蓮 沼・平和町・旭町・ 難田・敷島町・蘇鉄		
	3・14	火	岩木町・芭蕉・東町 本町・大町・田川・ 若葉		
	3・15	水	松島町・下平井町・ 湊・湊団地		

※申告書は、申告相談会場に備え付けしてあります。

新ダイヤで“出発進行” —JR五所川原駅—

JR東日本では、3月11日からダイヤ改正を実施します。

五能線では、東能代直通列車を2往復新設しました。

五所川原駅関係の発車時刻の改正は下記のとおりです。

上り(鯉ヶ沢方面)	下り(川部方面)
※10:06 (9:30)	14:56 (14:48)
※16:03 (15:33)	15:27 (15:30)
17:13 (17:09)	16:32 (16:26)
18:24 (18:22)	18:24 (18:22)
19:01 (18:59)	20:20 (20:16)
21:01 (20:57)	

()内は改正前の時刻。※印は東能代直通列車

新受入図書

-市立図書館-

書名	著者名	書名	著者名
だからニュースは面白い	木村 太郎	生きる歓び	田村 隆一
心中考	大原健士郎	人間のいとなみ	青野 聰
痛恨の昭和	石川 光陽	幽霊湖畔	赤川 次郎
エネルギーの政治経済学	大橋 忠彦	奇跡の男	泡坂 妻夫
ちょっと知らないだけで貧乏する	海江田万里	武家女夫録	安西 篤子
世界で稼ぐ	邱 永漢	雨の日には車をみかいて	五木 寛之
なにが愛なのか	山口 洋子	くねり坂	うつみ 宮土里
ノートや鉛筆が学校を変えた	佐藤 秀夫	ファースト・レディ	遠藤 周作
ブツンママ物語	鈴木みち子	キルプの軍団	大江健三郎
イワナのあくび	河村 宗郎	幻山秘宝剣	菊地 秀行
病気知らずの積極育児	山森 勲	白色の残像	坂本 光一
暮らしの放射線学	市川 龍資	風の光景	佐藤 愛子
0.1のおしゃれノート	大橋 歩	月宮の人	杉本 苑子
日本農業の独自性とは何か	清水 浩	窓辺の猫	原田 康子
農家の父より息子へ	山下 惣一	たそがれ清兵衛	藤沢 周平
ハイタク奮戦記	加川 光義	樹影譚	丸谷 オ一
聖歌伝説	講談社	トバース	村上 龍
暮らしの器	朝日新聞社	望郷	森 瑤子
日本の挽歌	富山 治夫	黄昏のベルリン	連城三紀彦

農業年金にぜひ加入を

「農業者年金に加入できる資格があるのに加入していない方」はいませんか。

農業者年金は、老後の安定のために大変有利な制度です。

国民年金に加入している方で、20才以上から加入できます。

早く加入するほど年金額は多くなります。

農業者年金の加入手続き、内容等の詳しいことは最寄りの農業協同組合、農業委員会(☎☎2111番内線229番)へお気軽にご相談ください。

第7回 西北五ジャイアント・スラローム 神山大会

▷日時 2月26日(日)午前9時から

▷場所 神山スキー場

(津軽フラワーセンター内)

▷申し込み締切 2月18日(土)正午まで

※申し込みや詳しいことは、大会事務局(市内布屋町55・西北スポーツ内☎☎7845番)へどうぞ。

ひな祭り料理教室 受講生募集

働く婦人の家では、ひな祭り料理教室を開催します。

多数の受講をお待ちしています。

▷受講資格 市内に住所または勤務先を有するご婦人

▷日時 2月22日(水)午前10時～午後1時
2月23日(木)午後6時30分～9時
のどちらか希望の日

▷受講料 無料(材料費1,000円)

▷募集人員 20名

▷申し込み締切 2月21日(火)正午

※申し込み及び問い合わせ先

働く婦人の家(☎☎8898番)へどうぞ。

年金住宅融資申込受付中 (63年度第4回)

▷利用できる方—厚生年金保険に加入している方で、加入期間が3年以上ある方。

▷資金の用途—新築住宅、マンション、建売住宅購入資金で、居住面積220㎡以下のもの。住宅改良は居住面積40㎡以上のもの。

▷融資金額—所要資金の80%以内で、加入期間などにより最高1,620万円まで。

▷融資利率—年4.70%(一般貸付)〔昭和63年12月30日現在〕

▷返済期間—5年から35年まで「ステップ返済」も利用できます。

▷申込受付期間—3月10日まで。

詳しいことは、県保険課・県厚生年金勤労者住宅協会(☎0177☎2077番)へお問い合わせください。

野菜づくり講演会

市野菜研究会では、「もうかる野菜づくり」のための講演会を開催します。

関心のある方はご参加ください。

▷日時 2月28日(火)午後1時～3時

▷場所 市中央公民館

▷参加資格 野菜づくりに関心のある方であれば誰でも参加できます。

▷受講料 無料

▷内容 講演「もうかる野菜づくり」

講師 県農業試験場 大場貞信氏

「ふるさと創生事業」の アイデア募集

国が全国各市町村に一律1億円を交付することで、話題を呼んでいる「ふるさと創生事業」が今春からスタートします。

同事業は、国が各市町村の自主的・主体的な地域づくりの取組みを支援し、潤いのあるまちづくりの起爆剤になることを期待しているものです。

市では、地域の特性を生かした「ふるさと創生」にふさわしい事業のアイデアを広く市民から募集することになりました。

奮ってご応募ください。

▷応募方法 ①住所②氏名③年齢④職業⑤電話番号⑥事業の内容⑦事業の効果等(なるべく詳しく)をご記入ください。

▷締切日 3月15日(木)必着のこと。

▷問い合わせ及び応募先

五所川原市宇岩木町12 五所川原市役所内
総務部秘書企画課企画室(☎☎2111番内線
318・319番)

休日・夜間の急病は
在宅医師の照会消防署へ

☎34-4999番
(救急医療部会)

火災情報は

☎34-2323番

耐ふる術いつか身につき山眠る
生乾しの鮭ぶら下る浜出店
古毛糸集めてながめ老いしかな
庚申の塚に屋根なす大冬木
漬終えて糎と云ふ字を思ひ出す
生簀垣越えてのたうつはらみ鮭
日高昆布やわらかに煮え山に雪
箒売る小男きたる十二月

俳

句

五所川原婦人句会

対馬 暉子
前田 せい女
野村 とし
長沢 幸子
齋藤 さだ
齋藤 今日子
成田 市子
松宮 梗子

3月の保健センター「相談日」

▷日時 3月3・10・17・24・31日(毎週金曜日)の午前10時～午後3時

▷内容 保健婦が血圧の測定や尿検査を含めた健康相談に応じます。赤ちゃんからお年寄りまで、お気軽にどうぞ。

乳幼児の健康診査

▷場所 市保健センター

▷受付時間 12:45～13:00

▷持参するもの 母子健康手帳、バスタオル。
3歳児は尿検査も行いますので、当日小ビンに尿を入れてもってきてください。

※注意 ①6ヵ月児健康相談の際に、神経芽細胞腫(小児がん)の検査セットを配付しますが当日つごうで来れない場合は、母子健康手帳をもって衛生課窓口にてセットをもらいにきてください。(ただし生後6ヵ月、7ヵ月児に限る)。

②病気療養中(特に伝染性の病気)のお子さんはご遠慮ください。

月令	対象児	期日	内容
3ヵ月児	S63年11月生	3月14日(火)	健康診査
6ヵ月児	S63年8月生	3月22日(水)	健康相談
1歳児	S63年2月生	3月27日(月)	健康相談
1歳6ヵ月児	S62年9月生	3月28日(火)	健康診査
3歳児	S60年10・11月生	3月16日(木)	健康診査

子宮がん検診

市では、先に子宮がん集団検診を実施しましたが、受診できなかった方のために次のとおり子宮がん検診を実施することになりました。

▷対象者 市内に居住する30歳以上の婦人

▷実施期間 2月28日まで

▷受診方法 市の指定する産婦人科の窓口で申し込みと同時に受診してください

▷持参するもの 健康保険証

▷受診料 1,000円(ただし、五所川原市国民健康保険加入者は400円。また、70歳以上の方、生活保護世帯、市民税非課税世帯の方は無料一申し込みの際証明書提出してください。)

川村産婦人科医院・吉田産婦人科医院
齋藤産婦人科医院・森田診療所

※上記についてのお問い合わせは、市衛生課(☎☎2111番内線268、272番)へどうぞ。